

「気象業務はいま 2022」の刊行について

気象庁では、気象庁の取組の現状と今後の展望など、気象業務の全体像について広く国民の皆様にご覧いただくことを目的として、「気象業務はいま」を毎年6月1日の気象記念日にあわせて刊行しています。

今年の「気象業務はいま 2022」の主な内容は次の通りです。

なお、今回より、気象庁の取組をよりご覧いただくため、特集とトピックスに特化した構成としています。構成の詳細については別紙-2をご覧ください。

○ 特集

気象庁の取組の中で特にスポットを当て、内容を詳細に紹介するコーナーです。静止気象衛星「ひまわり」のこれまでの歩みと後継衛星への期待について紹介しています

○ トピックス

気象庁の最新の取組等を紹介するコーナーです。地域防災支援、線状降水帯、気候変動に対する取組、社会や生活における気象情報の活用に加え、気象や地震・火山の情報改善に関する取組などについて取り上げ、今年で百周年を迎える気象大学校についても紹介しています。

「気象業務はいま 2022」は、6月1日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>)

「気象業務はいま 2022」の構成

○特集 静止気象衛星「ひまわり」の歩み

- 1 静止気象衛星「ひまわり」の誕生
- 2 ひまわり 8 号・9 号
- 3 「ひまわり 10 号」の整備に向けて

○トピックス I 地域防災支援の取組

- I - 1 平時の地域防災支援の取組
- I - 2 災害時の地域防災支援の取組
- I - 3 気象防災アドバイザーの拡充

○トピックス II 線状降水帯による大雨災害の被害軽減に向けて

- II - 1 線状降水帯予測精度向上に向けた取組の加速化
- II - 2 令和 3 年 8 月の記録的な大雨への対応

○トピックス III 気候の変動による影響を正しく理解し将来に備えるために

- III - 1 気候変動対策に資する科学的知見の提供
- III - 2 世界で発生する異常気象
- III - 3 季節予報の精度向上に資する技術開発・研究

○トピックス IV 社会や生活の中で活かされる気象情報

- IV - 1 気象予報士と気象データアナリストの活躍
- IV - 2 産業での気象情報・データ活用
- IV - 3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を支援しました
- IV - 4 コロナ渦における情報発信・普及啓発

○トピックス V 大雨・洪水・雪等の情報の改善

- V - 1 大雨や台風に備える防災気象情報の改善
- V - 2 洪水及び土砂災害の予報のあり方に関する検討会
- V - 3 新しい雪の予報「今後の雪」

○トピックス VI 地震・津波・火山に関するきめ細かな情報の提供

- VI - 1 「津波フラッグ」による津波警報等の伝達に係る周知・普及について
- VI - 2 都市の地震災害への対応
- VI - 3 火山に関する情報の改善
- VI - 4 福徳岡ノ場の噴火対応
- VI - 5 フンガ・トンガーフンガ・ハアパイ火山の噴火に伴う潮位変化と気象庁の対応

○トピック VII 世界気象機関（WMO）が気象データに関する新たな方針を採択

○トピック VIII 気象大学校 100 周年

○資料編

全国気象官署一覧、「気象業務はいま 2022」の利用について、第三者創作図表リスト